

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	ドイツの学生生活 〈紀行〉
Author(s)	竹島, 俊之
Citation	広大言語 , 11 : 29 - 32
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046373
Right	
Relation	



(ヴェネツィアの陸の道はすべて歩道である)も処々水をかぶっていた。日本ほど賑やかではないが、ネオンの灯が水に影を落して、昼間とは異った趣をかもし出していた。

ドイツの学生生活

竹島 俊之

暗闇が辺りに押し広がり、建物の明りが徐々にその鮮やかさを増してくる夕暮れ時、大学構内を歩いていると毎度のように妙な胸苦しさを覚えます。それは1ヶ月前迄滞在していたドイツに対する激しい郷愁の思い、憧憬といったものでありましょう。広大と何となく似通った雰囲気を持つケルン大学の構内を或る時はその日最後の講義へと、或る時は Stammtisch (常連^{常連}の食卓、学生仲間の間ではコンパの意に用いられています)へと足を運んでいた頃の思い出から始まり、下宿のすぐ傍を流れているライン河の流れを眺めながら物思いに耽っていた時の事など。ライン河はこの辺りで非常に流れが速く水量も豊かであるため交通機関としても立派にその機能を果しています。Bonn, Frankfurt am Main 方面へ向う船は急流に妨げられ、よたよたと上って行きます。十字の旗を付けたスイス所属の石炭運搬船、タンカー、貨物船等。水はどす黒く濁り油が浮き各地で公害問題が起きている点は日本と事情は同じです。しかしながら速くあのケルンを象徴するドーム、Severin Brücke, alte Stadt の中世期の面影を残す建物の美しい Fassade の連なりを眺めながら河沿いに延々と続いているアカシヤ、白樺並木の道を散歩していると心が洗われていくようなすがすがしさを覚えます。春は特に風情があります。桜の芽が日1日とふくらんでいく様は目にとれる程で、人々はすぐ間近に迄やってきている春への期待に胸をときめかします。冬から春への変化はまことに急です。3、4日の間に灰色の景色がふき消され、辺り一面黄色い花花でおおい尽された事もあります。この散歩道に並行して市民の為のスポーツ施設と広々とした芝生地が広がり、日曜日になると彼等は子供連れでやって来て風上^{風上}げに興じたり、テニス、バドミントンなどに夢中になって1日を過ごします。夏になるとこの芝生の上では水着姿の女性が日光浴をたのしみ、その傍を散歩する事が気恥しくなってきます。ある夏の日の夕刻、8名の同宿人、彼等の遊び仲間20名程が河原に集まり、焚火の火で焼いたソーセージを頬張り、樽ビールを飲み、河の水音を聞きながら夜明け迄歌い踊って過ごした出来事も美しい思い出の1つです。彼等とはドイツの最大の1つである Karneval 以来特に親しく付き合うようになったのですが、彼等との間には実に様々な出来事がありました。結婚式の前祝い Polterabend に招かれ Dortmund 近くの Cas-trop Roxel という田舎町へ車で大挙して押しかけた晩の事、或はその仲間の恋人の妹の友達の Abitur 合格祝いのパーティが Sünden という美しい牧草地に取り囲まれた小さい町で催された時の事、その他彼等を通して様々なドイツの家庭に入りその生活様式に触れる事ができたのですが、そうした出来事を一々記していくとそれこそ話は焦点が定まらず旁鶩となっていくように思いますので、以下は学生生活を中心として文を綴っていくことにしましょう。

丁度今頃から、即ち10月下旬 Winter Semesterの受講届けが終り、講義も本格的となつてきます。講義内容は大きく分けて Vorlesungen, Seminar, Übungen の3つに分れていますが、大体日本の大学と似たような講義形態と考えて良いように思います。参考迄に1971年 Sommer Semesterの講義内容を掲げてみましょう。Vorlesungen—1. Epikur und Lukrez, 2. Griechische Lyriker, 3. Die Stellung der Schrift vom Erhabenen in der europäischen Literaturwissenschaft. 4. Einführung in der römischen Historiographie, 5. Geschichte der lateinischen Sprache; Hauptseminar—1. Thukydides, 2. Lukrez, 3. Juvenal, 4. Sueton De grammaticis et rhetoribus; Proseminar—1. Lucian, wahre Geschichten 2. Cicero, De nature deorum I 3. Tacitus Agricola 4. Ovid, Ex Ponto; Übungen—1. Cicero, Tusculanen, 2. Papyrusübungen 3. Leontios, Leben des hl. Symeon Salos 4. Epigraphisch—numismatische Übung 5. Griechische Lektüre, 6. Lateinische Schullektüre; Petron, Cena 7. Griechische Stil—und Übersetzungsübungen, 8. Lateinische Stil—und Übersetzungsübungen Grundkurs (A), (B), Oberkurs (A), (B), (C) その他に Sprachkurse というものがあります 例えばギリシア語では Griechische für Anfänger I, II, Fortgeschritte (Lektüre) が置かれた週5日間毎日1時間づつ配分されています。しかしながらこの講義内容は非常に程度の I, II, では初級文法 Fortschrittにしても Gymnasiumの先生が担当し、私が受けた時にはプラトンのゴルギアスを読んでいましたが、前日に語の文法的分析、原形等が克明に記されたプリントを受け取り、次の日にそれを翻訳するだけの作業、デミク などところが全くない無味乾燥な授業でした。おそらくこれはギリシア語、ラテン語の知識のない Germanistik 専攻生等を対象にしたものであるように思います。これに参加したおかげで Gymnasiumの先生のギリシア語に対する姿勢、授業方法が窺われた事は副次的な収穫でした。

学生達の勉学の中心は専ら Seminar と Übungen です。特に Übungen の方は学期末毎に試験があり、学生達もこれには大いに力を入れている様子でした。その中でも特に Stil Übung は最大の難関の1つで、その授業の予習のために2週間早朝から夜遅く迄研究室に閉じこもって勉強している学生の姿をよく見かけました。Seminarはこれに反し教授と学生との間に少々慣れ合い的な気分が感じられる程のリラックスした雰囲気の下に行なわれます。私の参加した Thukydides に就て言えば、1時間程原文を翻訳し、次にその箇所に関係のある2, 3の論文(これはその都度、前回に教授より読んでくるよう指示があります)に就て討論を行うという形式で授業が進められます。ここで気になるのは、学生達の Seminar の選び方です。彼等は先ず Staatsexamen の担当教官が誰になるかと調べ、その教官のゼミに参加します。例えばそれが自分に興味の無いテーマではあっても、学期末の終りには各教授はゼミの学生を自宅に招待し、食事を共にしワ

インを飲みながら談笑したりする事が慣例のように行なわれています。近頃の学生達はこれをも Staatsexamen の時は少しでも有利に働くようにと利用しているようです。

この古典学研究所は奇妙に広大な言語学研究室に似たところがありました。即ち全体の雰囲気が非常に家族的である点です。例えば隔週毎火曜午後 8 時 30 分から大学近くの学生寮食堂で Stammtisch が開かれていました。これはビールを飲みながら教官と学生達が自由に話し合う一種のコンパのようなもので、ビールでほろ酔い気嫌になりながら夜半過ぎまで、学生運動、政治問題、友情論、宗教と道徳等に就て意見をたたかわせていました。教官方が参加していない時、或は早く退席された時には講義批判なども行なわれます。ゼミ担当の先生を掴まえて今晚は相当酔ってしまったから明日早朝の講義開始をおそくしてくれと頼み込んでいた或女子学生の姿がまぶたに浮かびます。

この研究室の人達とフランス国境近くの Trier へ 2 泊 3 日の修学旅行に行った時の事も美しい思い出の 1 つです。数組の教官夫妻を含め参加者は 30 名程度、大学の正面玄関に集合し、そこから貸切バスで出掛けたのですが、先ず最初点呼を取る際に女子学生が教授夫妻に対し zweimal という言葉を使ったのには驚きました。例えば Wülfing zweimal という具合に、一瞬バスの中もざわついたように記憶しています。途中ローマ時代の水道跡や教会跡を見学、美しい牧草地田園を窓外に見ながら Trier に。最初の晩はホテルのロビーで深夜迄ダンスパーティ。次の日はその町にあるローマ時代の公衆浴場跡、美術館、porta nigra 見学。見学の際にはそれぞれの道の權威の人からの非常に詳しい説明があったのですが、最後の porta nigra に就てはその再建の時代推定をめぐるけんけんごうごうたる議論が繰り広げられていました。その他モーゼル河に遊覧船を浮べて遊んだ事、小さな Weinskellerei (ぶどう酒醸造所) を訪れ皆酔う程試飲し地下室で大合唱するに至った時の事等、とにかくこの旅行に関しては時間を追って記憶がたどれる程印象の深いものでした。それを機に数人の若い研究者達と非常に親しくなり、又それは 10 日ほど話していた学生達とも du で話し合うようになり、それ以後の研究所生活は非常に楽しいものになってきました。

そのうちの Johannes, Josephs という 2 人の学生とは特に親しくなり、この夏休みは殆んど彼等と行動を共にしておりました。ウィークデーには夕方 5 時頃研究室を引揚げ下宿で簡単な食事を済ませ、2 時間程読書会、その後近くのプールに行き水泳。日曜日には一緒に散歩という非常に健康的な生活です。そしてこの時初めてドイツ人の言う散歩の意味がわかったような気がします。森と湖の美しい景勝地 Mariawald とか Münstereifel へ行った時の事。地図を片手に 6 時間途中少しの休憩をおいてぶっとおしに歩かされたのですが、その歩き方のすさまじい事。山の中で道を失いどうするかと見ていると、この方角に行けば必ず目的地に着く筈だという事で岩や木の枝に掴まりながら山の斜面を這い登って行った時はさすがドイツ人だなという感を新にしました。その時気付いた事はドイツ人は本当に謎の事が好きな国民だなという事でした。文学論、自分の最近経験した出来事、或は芸術論。話題が途切れると自分の知っている Witz を。殆んど沈黙の間がない程喋り話に喋っておりまして。或女性(非常に個性が強く全学連の闘士的タイプ)をめぐる軽

い三角関係の間柄にあった学生と Mensa (学生食堂) で一緒に食事をしていた時の事。今から君に1つWitzを教えるから、彼女にそれを話して見なさいという事で次のような話をしてくれました。「ある時2匹のDackel (ドイツ人特に婦人が好んで連れて歩く胴長く、足は短く耳の長い愛玩用の犬、ドイツでは電車の中にも連れ込む事ができますので、前の座席の下から突然そうした犬が顔をのぞかせびっくりする事があります。) が道端でphilosophierenしていました。即ち芸術、文学、政治に就て語り合っていました。そして1匹が尋ねて曰く『もしも君が人間になったらどうするか』と。『そう家を作り、庭を作り、プールを作り、そして美しい女性と結婚したいものだ』、尋ねた犬曰く『前の方は私も賛成だ、しかし女性と結婚するのは反対だね。せつかく人間になれたのに、又Dackelに戻るのは嫌だから。』」「道端でphilosophierenしている」という言葉、ドイツ人の会話の様を言い表わすのに非常に相応しい言葉であるように思います。美しい構文、適切に物事を述べる文章を作る事それ自体に楽しみを見出し会話している感じです。山の中である庭師に出会った時の事、「今の庭師の言葉を聞いたか。何と教養のある物言いをしたではないか。彼は今でこそ庭師をしているが、以前はきっと社会的地位のある人であったに違いない」と言葉遣いによって人を判断する事もあるようです。真底から自国語を愛し、それを誇りにし、又それを使用する事に喜びを見出しているという印象を受けました。

(昭和46年10月31日 記)